

n i t e 平成17年度事故情報収集・調査結果を公表

平成18年11月21日
独立行政法人製品評価技術基盤機構

独立行政法人製品評価技術基盤機構（理事長：御園生 誠 本所：東京都渋谷区 通称：「nite（ナイト）」）では、身近な製品（※）に関する事故の情報を収集し、事故の原因を究明し、その結果の情報提供を行っています。本日付けで平成17年度（2005年度）分の収集・調査結果をとりまとめましたので公表します。なお、詳細は本日からniteホームページ（<http://www.nite.go.jp>）において掲載します。

（※）身近な製品とは経済産業省所管の消費生活用製品等（家電製品、燃焼器具、乗物、レジャー用品、乳幼児用品等）をいいます。

<<事故報告の概要>>

平成17年度に収集した事故情報の総件数は、2,413件と過去最多（前年度比約14%増）を記録しました。平成17年度は新聞情報が事故情報収集件数全体の約65%を占め、前年度比55%増となっています。この要因は、この2、3年、自動ドアによる死亡事故、回転遊具の事故、自動車の欠陥による事故などが立て続けに発生し、社会全体で安全、安心問題に関心が高まってきた中であって、さらに、石油温風暖房機による事故が大きく報じられたことや、平成17年12月から翌年2月の間の大雪による除雪機関連の事故等が増加したことによるものと考えられます。

なお、個別の事故内容等については、今後、冊子にとりまとめて公表する予定です。

（本件に関する問い合わせ先）

URL <http://www.jiko.nite.go.jp/>

電話 06-6942-1113（直通）

ファクシミリ 06-6946-7280

電子メール jiko@nite.go.jp

独立行政法人製品評価技術基盤機構
生活・福祉技術センター製品安全企画課
担当：長田、小田

■ 事故情報の収集・調査結果の主なポイント ■

(1) 事故情報の通知が多かった製品区分

平成17年度に収集した事故情報は2,413件と過去最多（これまでの最多だった平成16年度2,378件から約1.5%増加）であり、件数が多かった製品区分については以下のとおりです。

① 燃焼器具	1,055件	(43.7%)
② 家庭用電気製品	860件	(35.7%)
③ 乗物・乗物用品	204件	(8.5%)

(2) 事故情報の通知が多かった品目

平成17年度に受け付けた2,413件のうち事故情報の通知が多かった品目の順位については以下のとおりです。

① ガスこんろ	407件	(16.9%)
② 石油ストーブ	266件	(11.0%)
③ 電気ストーブ	173件	(7.2%)
④ 四輪自動車	120件	(5.0%)
⑤ エアコン	50件	(2.1%)

(3) 製品に起因する事故（事故情報の通知が多かった品目）

平成17年度受付分（2,413件）のうち調査が終了したのは853件で、このうち「製品に起因する事故」で事故情報の通知が多い品目の順位は、以下のとおりです。

① 直流電源装置	42件	(23.0%)
② 電気ストーブ	11件	(6.0%)
③ 玩具	8件	(4.4%)
③ 電気こんろ	8件	(4.4%)
⑤ カラーテレビ	6件	(3.3%)
⑤ 冷蔵庫	6件	(3.3%)

(4) 誤使用や不注意による事故（事故情報の通知が多かった品目）

平成17年度受付分（2,413件）のうち調査が終了したのは853件で、このうち、使用者の「誤使用や不注意による事故」で事故情報の通知が多い品目の順位は、以下のとおりです。

① ガスこんろ	172件	(43.1%)
② 石油ストーブ	35件	(8.8%)
③ 電気ストーブ	20件	(5.0%)
④ 四輪自動車	15件	(3.8%)
① まきふろがま	13件	(3.3%)

(5) 注目して調査を実施したもの

平成17年度に、重大な人的被害や拡大被害が発生し、または、事故が多発（多発する可能性のあるものを含む。）し、注目して調査を実施したものについては以下のとおりです。

【重大事故】

- ①漏れた一酸化炭素により中毒事故が多発したFF式石油温風暖房機。
- ②引き紐の金具部分が伸びて本体から外れ、水晶体を損傷した照明器具。
- ③着火レバーが復帰せず、残火が生じた簡易ガスライター。
- ④タンクが破裂し、住宅を破損させた電気温水器。
- ⑤発火し、流し台及び蛍光灯を焼損した食器洗い乾燥機。

【多発事故】

- ①ヒーター管が破裂しフローリングを焦がした電気ストーブ（ハロゲンヒーター）。
- ②発火した石油給湯器。
- ③中間スイッチ部から発煙した電気こたつ。

【注目事故】

- ①ペットボトルを使用する加湿器で火傷したスチーム式加湿器。